

「歯を守れ！予防歯科に命を懸けた男」を読んで

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 歯科衛生士 古家 智恵

私が今回この本を読んで一番強く感じたことは、熊谷先生のこだわりの強さです。自分に関してはもちろん、スタッフにも、そして患者さんに対しても、一切の妥協を許さず、自分の熱いこだわりという信念をもって理想の予防歯科へ突き進んでこられたのだなと感じました。

こだわりを突き通すことは簡単なことではありません。こうしたい、という理想を追い求める時に、こだわりというルールは足を引っ張る要因になります。ここさえ目を瞑ってしまえばうまくいく、そんな瞬間はいつでもあると思います。しかもそれを自分の中だけでなく、他者にも求めようと思ったら、本当に困難になっていきます。それでも、譲らない。理想とする「予防歯科」を構築するために、そしてそれが患者さんのためになると信じて、突き進む。そのこだわりの強さや熱量が、「カンブリア宮殿」で見た以上に感じられる一冊でした。

最近では、10年前に比べて、歯科において予防という意識は浸透してきたように思います。「虫歯予防のために」と書かれた歯ブラシや歯磨剤がスーパーマーケットで当たり前のように並んでいます。でも、どうして予防が必要なのか？何から、どうやって歯を守るのか？その部分はフューチャーされぬまま、ぼやけているように思います。そこで必要となるのが、私たち専門知識を持った歯科衛生士の役目なのだと、今回この本を読んで改めて感じました。

「熊谷先生は歯医者者を総合的な診療ステーションにしようとしている」この文章が、私はとても衝撃的でした。予防の大切さ、歯周病が全身疾患につながることに、それは理解していても、私には歯医者者を足掛かりに全身疾患を考える、というところまで意識が繋がっていませんでした。

食べられる、噛める、飲みこめる。普段何も気にせずに行っているこの行為こそ、健康への糸口であり、これができて初めて全身に栄養が行き渡ります。一本の虫歯によって噛みにくくなり、その普段と違う不便さから、いつも何の問題や心配もなく噛めて食事ができているんだということを一時的に振り返っても、そこから正常に噛んで食べられるからこそ健康でいられること、それが全身に繋がることまでを関連付けて考えられる人はまだそう多くありません。そこで私達が説明し、患者さんの口の中や生活習慣から今後を見据え、現状の説明から改善策と一緒に考えていくことで始めて予防は完成するのだということ、今回熊谷先生の熱い文面を読んで改めて考えることができました。

患者さんに説明し、理解してもらうためには知識が必要です。ですが知識だけでは響かないことがあります。そんな時、訴えかけることができるのが「予防によって歯を守りたい」という熱いこだわりと信念なのだと思います。

「あなたの口の中を一緒に整えていきたい、そして健康になってほしい。」この思いを忘れずに、私も明日からまた患者さんと向き合っていこうと思いました。